

第3回委員会

日時：2019年9月7日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、安食、石澤、木村、谷口、鵜田、藤井、村上（一）、村上（遥）、横山
<事務局>三浦

[配布資料]

1. 2019年度第2回目録委員会記録（案）（4ページ-A4、横山委員）
2. 今後の委員会活動に向けてのメモ（2019.9.7）（3ページ-A4、渡邊委員長）
3. 全国図書館大会について（2019.9.7現在）（2ページ-A4、渡邊委員長）および大会発表用原稿一式
4. 著作の判断基準に関する検討メモ（1ページ-A4、渡邊委員長）
5. IFLA LRMに対するメモ（4ページ-A4、鵜田委員）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2019年度第2回の記録（資料1）について、確認を行い、確定した。

2. 日本目録規則（NCR）2018年版関連情報の更新

7/31にWebページ「エレメント・語彙等データ提供」に掲載のデータ「語彙のリストの用語」および「統合データ」を更新した。

3. 関連する活動

図書館雑誌8月号（特集：NDC90周年とNCR2018刊行を記念して）が刊行された。

近畿地区図書館学科協議会（9/6）にて、渡邊委員長が「NCR2018を教えるとしたら」について報告を行った。

[検討事項]

1. 全国図書館大会について

資料3に基づき、当日までのスケジュール、大会要綱に掲載される分科会概要および発表要旨を確認した。また、各発表者の発表資料についても検討・確認した。

2. データ作成事例集について

NCR2018に基づいたデータ事例集について、エレメント別の事例はNCR2018条文内にも掲載されているため、まずは各機関で要望が多いと思われる資料種・媒体ごとのまとまりで事例を作成することとなった。必要と思われる資料種の洗い出しから行う。

3. IFLA LRMについて

資料5に基づき、鵜田委員より、IFLA LRMの概要および4.2（属性）までの内容について説明があった。また、LRMとNCR2018を比較した際の、実体およびその属性の違い等についても説明があった。NCR2018のLRM準拠を今後検討する場合の問題点等について、次のような点について

意見交換した。

- ・最上位の実体である Res の規則上の位置づけや活用方法について
- ・「行為主体 (agent)」の下位に「個人」「集合的行為主体」という実体の階層構造について（属性の継承など）
- ・「個人」の定義変更（実在の人に限られる）について
- ・Nomen の独立した実体としての位置づけについて（規則上の名称やタイトルの扱いへの影響など）
- ・主題の扱いについて
- ・「代表表現形属性」の考え方について（NCR2018 のエレメントとの関係など）

4. 著作の判断基準に関して

前回から検討中の著作の判断基準に関して、資料 4 に基づき、これまでの検討経緯を整理した。著作の判断については、委員会で基準を策定するのではなく、機関における実際の資料に基づくデータ作成をサポートする、また、各資料の専門家と連携しつつ、必要があれば、委員会でも検討を行う方針としてはどうかとの意見があった。

次回以降の委員会の予定

10 月 12 日（土）

11 月 9 日（土）

12 月 21 日（土）

以上